

高校生3年生の大学体育とスポーツに対する意識調査<ダイジェスト>

大学体育とスポーツのあり方を考える上で参考にするため、大学進学を希望している高校3年生の意識を調査しました。

調査の概要

調査期間：2018年9月14日～9月17日

調査対象：4大都市圏（9都府県）に居住し、大学進学を希望している高校3年生

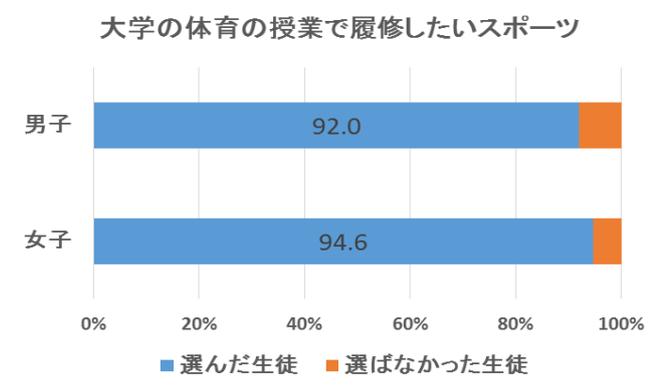
回答者：男子：500人、女子：500人

報告書：『大学体育』第112号に掲載。

I. 大学体育についての意識

1. 9割以上の生徒が、大学体育で何らかのスポーツ種目を履修することを希望した

大学体育の授業が開講されていることを知っていた生徒は約半数であった。しかし、9割以上の生徒が何らかのスポーツ種目を希望した。大学進学希望者や入学直後の学生に大学体育の情報を提供すれば、志願者や履修者を増やすことが期待できる。



2. 履修を希望するスポーツ種目には男女で特徴が見られた

大学で履修を希望するスポーツ種目には男女で特徴が見られた。女子では「ダンス、舞踊」や「ヨガ、ピラティス」の希望が多い。国が進めている女子のスポーツ実施率向上のためにも大学体育で女子向けの授業を開講することが

男子		女子	
	%		%
バドミントン	25.6	バドミントン	41.0
サッカーやフットサル	25.0	ダンス、舞踊	35.2
スキーやスノーボード	22.0	スキーやスノーボード	24.2
硬式テニスやソフトテニス	22.0	バレーボール	22.2
バスケットボール	21.8	ヨガ、ピラティス	21.6
卓球	21.2	バスケットボール	19.6
バレーボール	21.0	弓道	17.4
野球やソフトボール	21.0	硬式テニスやソフトテニス	16.4
ボウリング	18.0	卓球	16.4
水泳(競泳、飛び込みなど)	16.2	レクリエーション・スポーツ	14.4

が必要である。また、生涯スポーツの観点からは、ゴルフとボウリングの開講も重要である。

3. 体育嫌いや運動を継続してしたことがない生徒も履修希望する種目がある

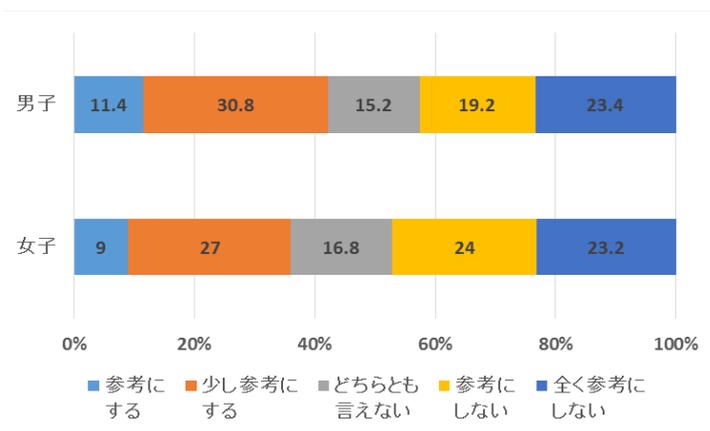
高校時代の体育が好きでなかった生徒は2割弱で、運動を継続的にしたことがない生徒も2割弱であった。これらの生徒も大学体育で履修希望する種目があった。体育の授業はこのような生徒に運動する機会を与えることになる。

II. 大学スポーツについての意識

1. 自分が行きたいスポーツの運動部やサークルがあるかどうかを参考にする生徒は4割弱

大学進学後にスポーツを実施したいと考えている生徒は7割弱であった。

志望大学を選ぶ際に、自分が行きたいスポーツの運動部やサークルがあるかどうかを参考にする生徒は4割弱であった。そのうち7割程度の生徒が入学案内資料で課外活動についての情報を閲覧していることから、課外活動に関する情報は重要であることが示唆された。



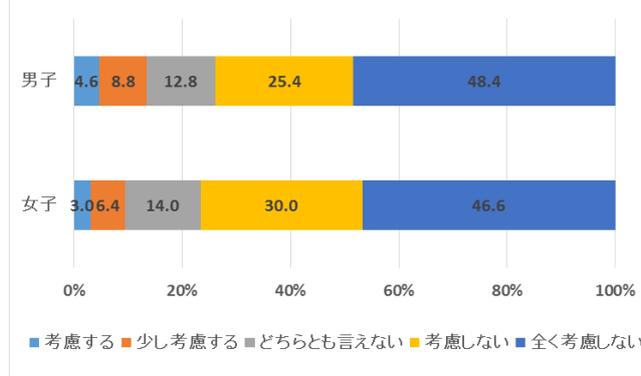
2. 応援に行きたい種目は野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール

応援に行きたい種目は野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールであった。全般的に女子の方が希望率が高い。大学スポーツを振興し、応援に行く学生を増やすとしたらこれらの種目がふさわしいと言える

男子		女子	
種目	%	種目	%
野球	27.6	野球	33.6
サッカー	26.2	サッカー	32.6
バスケットボール	18.2	バスケットボール	32.2
テニス	14.2	バレーボール	24.8
バレーボール	13.6	テニス	14.0
応援に行きたいとは思わない	37.4	応援に行きたいとは思わない	31.0

3. 志望大学選択の際にスポーツが強いことを考慮する生徒は1割程度

志望大学選択の際にスポーツが強いことを考慮する生徒は1割程度と少なかった。そもそもスポーツ強豪校は少ないので、スポーツ強豪校を志望する生徒ではどの程度の割合か今後調査する必要がある。



本研究は、2018年度文教大学学長調整金およびJSPS 科研費 JP16K01079 の助成を受けて行った。

小林勝法（文教大学）・北徹朗（武蔵野美術大学）